

エコアクション21 環境活動レポート



有限会社みちのく

対象期間:平成30年4月1日～平成31年3月31日

作成日:令和1年5月30日

環境方針

基本理念

有限会社 みちのく は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げて環境負荷の低減に努力します。

方 針

有限会社 みちのく は、産業廃棄物の収集運搬、産業廃棄物の処理、鉄・非鉄金属スクラップの売買、建設機械器具の修理及び売買、鉄鋼業に係わる全ての事業活動とこれらの商品と廃棄物による環境負荷を低減するために次の方針に基づき環境経営活動を推進して、地球環境との調和を目指します。

- 1 当社の活動、商品、廃棄物又はサービスに係わる環境影響を常に意識し、自主的、積極的に環境への取組みと継続的な環境負荷の削減を図ります。
- 2 当社の活動、商品、廃棄物又はサービスに係わる環境関連法規、その他の要求事項を遵守します。
- 3 当社の活動、商品、廃棄物又はサービスに係わる環境影響のうち、以下の項目を環境管理重点テーマとして取組みます。
 - (1) 取り扱い廃棄物のリサイクル率の向上
 - (2) エネルギー使用に伴う二酸化炭素排出量の削減
 - (3) 事務用紙廃棄量の削減
 - (4) グリーン調達の推進
 - (5) 水使用量の削減
 - (6) 会社内外の環境美化
 - (7) 環境関連法規の遵守
 - (8) 環境に配慮した製品及びサービスの販売・提供
- 4 ひとりひとりが環境負荷低減活動を積極的に実践できるように、この環境方針を全従業員に周知するとともに環境レポートで社外へも公表します。

上記の方針達成のために、目標を設定し、定期的に見直し環境経営システムの継続的な改善に取り組み、汚染の予防を図ります。

＜ 改 定 履 歴 ＞	
平成15年11月1日	発効
平成22年4月1日	改定
平成26年4月1日	改定
平成28年3月1日	改定

平成28年3月1日
有限会社 みちのく
代表取締役 澤田 淳

● 事業の概要

(1) 事業者名及び代表者名

有限会社 みちのく

代表取締役 澤田 淳

(2) 所在地等

青森県青森市浪岡大字女鹿沢字西富田344-3

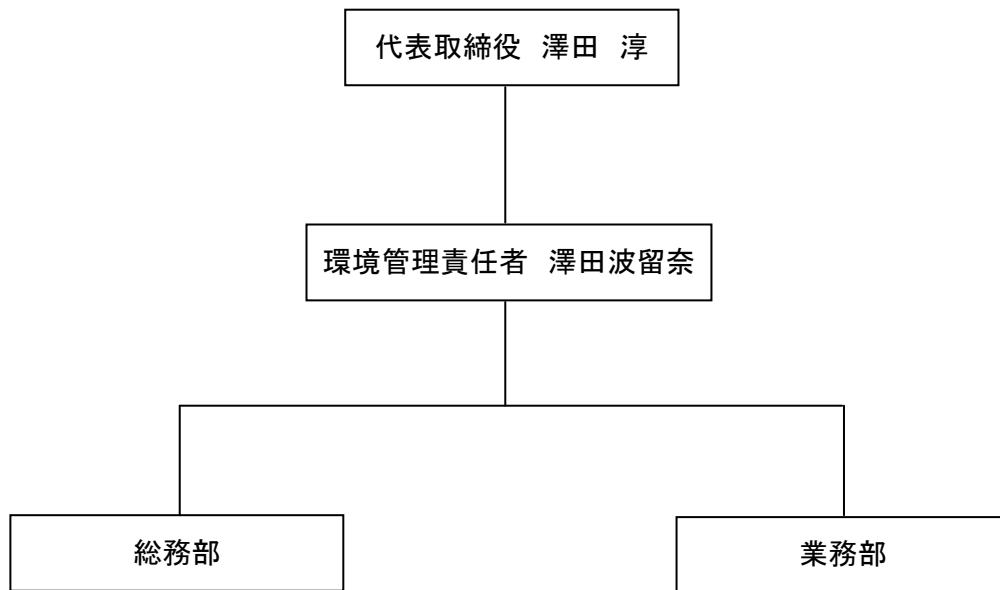
TEL 0172-62-1337 FAX 0172-62-1338

ホームページ:<http://www.em-michinoku.com/>

情報公開:産廃情報ネット情報公開システム

:<http://www2.sanpainet.or.jp/zyohou/index.php>

(3) 環境経営組織図



(4) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 : 澤田波留奈

連絡先 : TEL 0172-62-1337 FAX 0172-62-1338

(5) 事業の内容

鉄・非鉄金属スクラップの売買

建設用機械器具の修理及び売買

鉄鋼業

産業廃棄物の収集運搬業

産業廃棄物の処理業

一般廃棄物の収集運搬業

(6) 許可の一覧

行政名	許可証の名称	許可番号	許可の年月日	許可の有効年月日	事業の範囲		許可の条件など	
					取り扱う産業廃棄物の種類	積替え又は保管の有無		
青森県	産業廃棄物収集運搬業許可証	00200050630	平成26年10月8日	令和3年10月6日	燃え殻 廃油 廃プラスチック類 紙くず 木くず 金属くず ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず がれき類 ばいじん(これらのうち、自動車等破砕物及び特別管理産業廃棄物であるものを除き、石綿含有産業廃棄物を含む。)		無し	無し
秋田県	産業廃棄物収集運搬業許可証	00501050630	令和1年5月13日	令和6年5月12日	廃プラスチック類 金属くず ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず		無し	無し
青森市	産業廃棄物処分業許可証	10822050630	平成27年11月13日	令和4年10月15日	中間処理	破砕 廃プラスチック類 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず 圧縮 廃プラスチック類 金属くず 切断 廃プラスチック類 金属くず ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず 剥離 廃プラスチック類 金属くず これらのうち、自動車等破砕物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く。		無し
青森市	一般廃棄物処理業許可証	青市指令廃対策237号	平成31年4月1日	令和3年3月31日	可燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみ、粗大ごみ、「特定家庭用機器再商品化法」で定める対象機器、草木		無し	無し

(7) 設立年月日

平成6年5月18日

(8) 資本金

650万円

(9) 対象範囲

鉄・非鉄金属スクラップの収集販売及び産業廃棄物の収集運搬業・中間処理業

(10) 事業年度及び取組期間

事業年度: 毎年3月1日から翌年2月28日

取組期間: 平成30年4月1日から平成31年3月31日

(11) 事業の規模

活動規模	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度
収集運搬量	t	370.5	347.7	237.8
中間処理量	t	370.6	348.1	238.4
再生資源金属取扱量 (鉄、アルミ、銅等)	t	822.6	377.8	681.6
売上高	百万円	98.2	83.7	84.6
従業員	人	11	10	8
床面積(事務棟)	m2	118.9	118.9	118.9
床面積(倉庫)	m2	277.7	277.7	277.7
総物質投入量	t	1210.8	750.1	1043.4

(12)施設等の状況

設置場所	設置年月日	施設の種類	産業廃棄物の種類	処理能力
青森県青森市浪岡大字 女鹿沢字西富田344-3	平成6年5月	切断圧縮破碎施設	(切断) 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くず	切断圧 10.6t
			(圧縮) 廃プラスチック類、金属くず	
			(破碎) 廃プラスチック類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	圧縮破碎圧32.3t
青森県青森市浪岡大字 女鹿沢字西富田344-3	平成28年3月	剥離施設	(剥離) 廃プラスチック類、金属くず	0.96t/日(8時間稼働)
青森県青森市浪岡大字 女鹿沢字西富田344-3	平成14年5月	切断圧縮施設	(切断) 金属くず、廃プラスチック類、木くず	切断圧 26.6t
			(圧縮) 金属くず、廃プラスチック類	圧縮圧 22.0t
青森県青森市浪岡大字 女鹿沢字西富田344-3	平成16年9月	破碎施設	廃プラスチック類 ガラスくず	1.28t/日(8時間稼働) 2.16t/日(8時間稼働)

No.	車両形式	最大積載量	積載可能寸法 全長×幅×高さ(mm)	保有台数
1	キャブオーバー(12tクレーン)	11100kg	8300 × 2390 × 2500	1台
2	キャブオーバー(8tクレーン)	7100kg	5470 × 2220 × 2700	1台
3	キャブオーバー(7tクレーン)	6750kg	5400 × 1950 × 2700	1台
4	キャブオーバー(4t)	3900kg	6000 × 2100 × 2700	1台
5	ダンプ(2t)	2000kg	4000 × 740 × 2800	1台
6	バン	700kg	1760 × 1490 × 1180	1台
7	塵芥車	1600kg	-	1台

※No.1～No.6は産業廃棄物収集運搬車両として許可取得

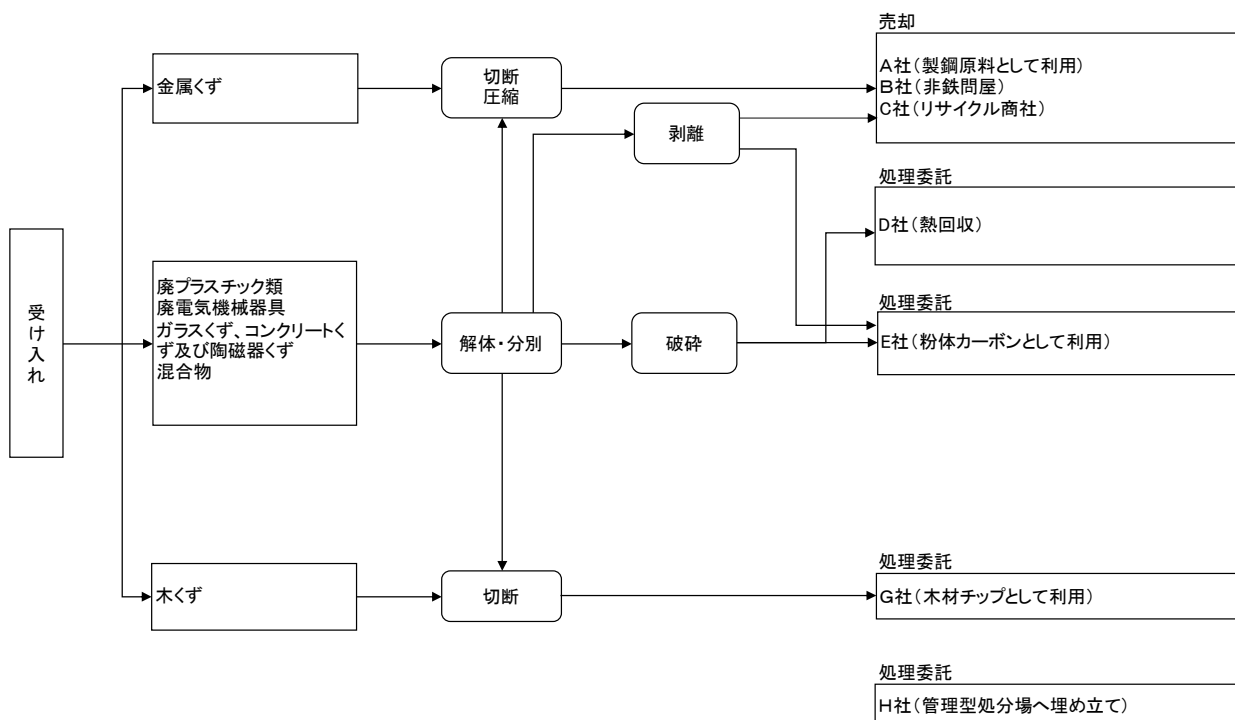
No.5、No.7は一般廃棄物収集運搬車両として許可取得

(13) 処理実績

平成30年度(平成30年4月～平成31年3月)

処理方法等	廃棄物等種類	処分方法等	処理量(t)	
(i) 収集運搬	ガラスくずコンクリートくず 及び陶磁器くず		0.2	
	金属くず		163.8	
	廃プラスチック類		8.4	
	廃電気機械器具		16.7	
	混合物		48.7	
収集運搬量合計			237.8	
(ii) 中間処理	ガラスくずコンクリートくず 及び陶磁器くず	破砕	0.21	
	金属くず	切断・圧縮	163.8	
	廃プラスチック類	破砕	8.8	
	廃電気機械器具		16.7	
	混合物	切断・圧縮・破砕・焼却・剥離等	48.9	
	うち 再資源化等	ガラスくずコンクリートくず 及び陶磁器くず	破砕	0.21
		金属くず	切断・圧縮	163.8
		廃プラスチック類	破砕	8.8
		廃電気機械器具		16.7
		混合物	切断・圧縮・破砕・焼却・剥離等	48.9
再資源化等量小計			238.4	
中間処理合計			238.4	
(iii) 最終処分				
最終処分量合計			0	
(iv) 中間処理後の産業廃棄物	最終処分			
	再資源化 (委託)	廃プラスチック類	23.4	
		ガラスくずコンクリートくず 及び陶磁器くず	2.28	
		燃え殻		
	再資源化等 (売却)	金属くず等	212.7	
		再資源化等量小計		238.4
中間処理後処分量合計			238.4	

(14) 処分業に係る処理工程図



● 環境目標とその実績

平成30年度の環境目標は、平成28年度の環境負荷を基準値として環境目標を設定しました。

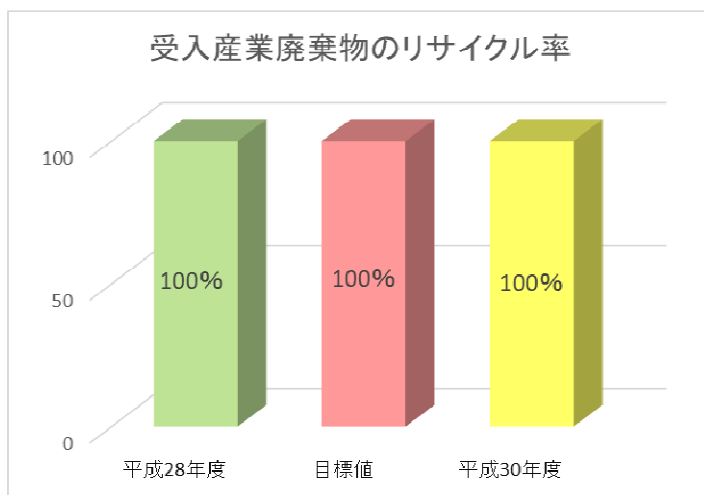
項目	基準値 平成28年度	目標値	実績		達成率	評価
			平成30年度			
取り扱い廃棄物のリサイクル率の向上	廃棄物等総排出量(再生利用含む)	74.3t	-	36.2t	-	-
	産業廃棄物リサイクル率 (中間処理うち資源化量 / 産業廃棄物受入量)	100% (370.6t / 370.6t)	100%維持	100% (238.4t / 238.4t)	100%	○
二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素排出量	76,827kg-CO2	75,290kg-CO2/t以下	78,420kg-CO2/t	96%	△
	電力 4,484kg-CO2 化石燃料 72,342kg-CO2	【平成28年度比】 2%減	電力 4,425kg-CO2 化石燃料 73,995kg-CO2			
事務用紙廃棄量削減	事務用紙使用量(A4換算)	7,037枚	6,896枚以下 【平成28年度比】 2%減	6,873枚	100%	○
グリーン調達推進	グリーン商品購入割合	66% (29品目 / 44品目)	66%以上	67% (20品目 / 30品目)	101%	○
水使用量削減	総排水量	72m³	72m³以下 【現状維持】	123m³	29%	×
化学物質使用量削減	化学物質使用量	取扱無し	-	-	-	-
会社内外の環境美化	地域の環境保全活動への協力	-	6回以上	6回	100%	○

※達成率150%以上は◎、100%以上は○、70%以上は△、69%以下は×

※購入電力の二酸化炭素は、平成24年度、東北電力㈱の排出係数0.6を用いて算定しました。

1) 取り扱い廃棄物のリサイクル率の向上

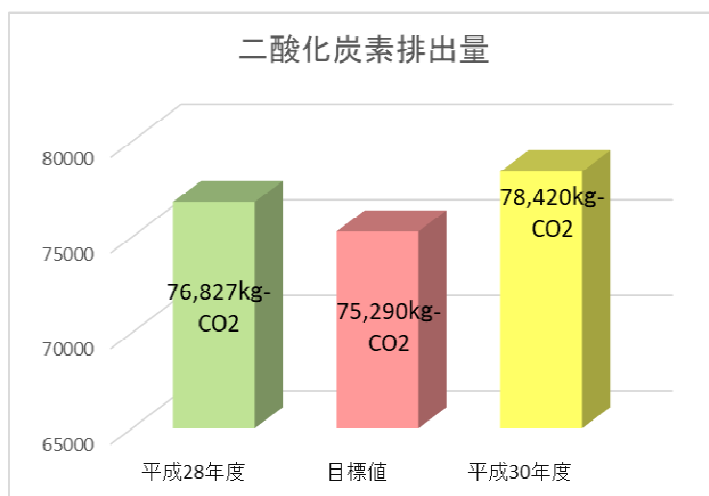
・受入産業廃棄物の全体量は、平成 30 年度で 238.4t となっており、平成 28 年度(基準年)の 370.6t から 36% 減少しています。



2) 二酸化炭素排出量削減

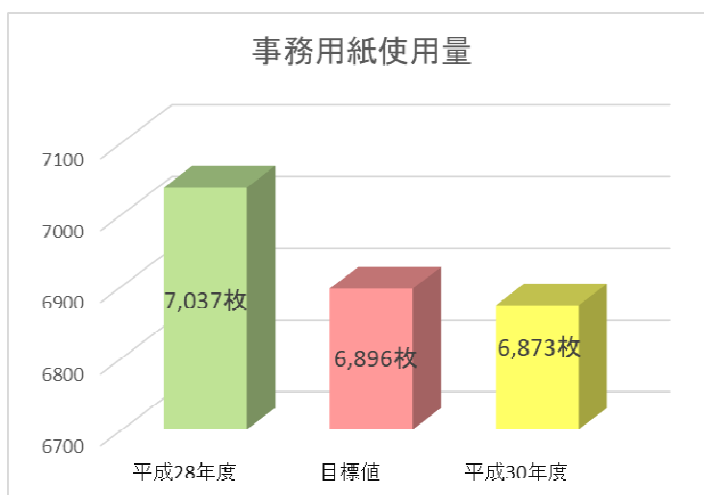
・電力使用に伴う二酸化炭素排出量では、平成 28 年度(基準年) 4,484kg-CO₂ から平成 30 年度 4,425kg-CO₂ と 1% 減少。化石燃料では、平成 28 年度(基準年) 72,342kg-CO₂ から平成 30 年度 73,995kg-CO₂ と 2% の増加となっています。

・平成 30 年度の二酸化炭素総排出量は、78,420kg-CO₂ で、平成 28 年度(基準年)の 76,827kg-CO₂ から 2% 増加し、目標(75,290 kg-CO₂ 以下)を達成できませんでした。軽油使用量が増加していることから、今年度より開始した新たな処理業務(重機使用)によるためと考えられます。



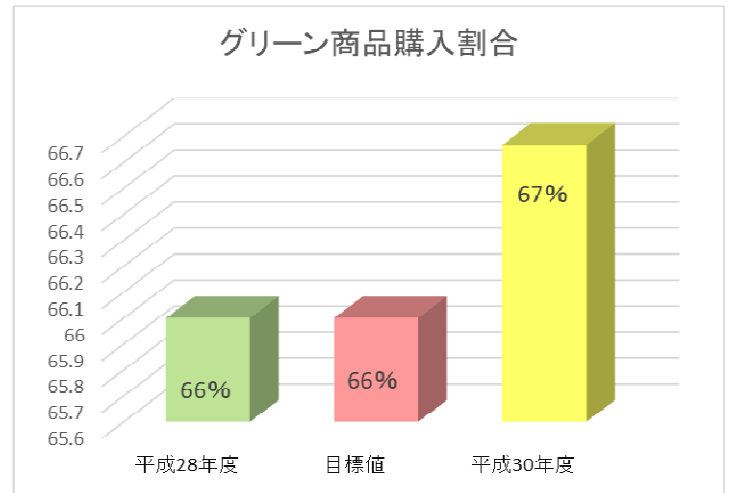
3) 事務用紙使用量削減

・事務用紙使用量は、平成 28 年度(基準年)の 7,037 枚から 6,873 枚と 2% 減少し、目標(6,896 枚以下)を達成できました。これは、社内文書の電子化がより定着してきたためと考えられます。



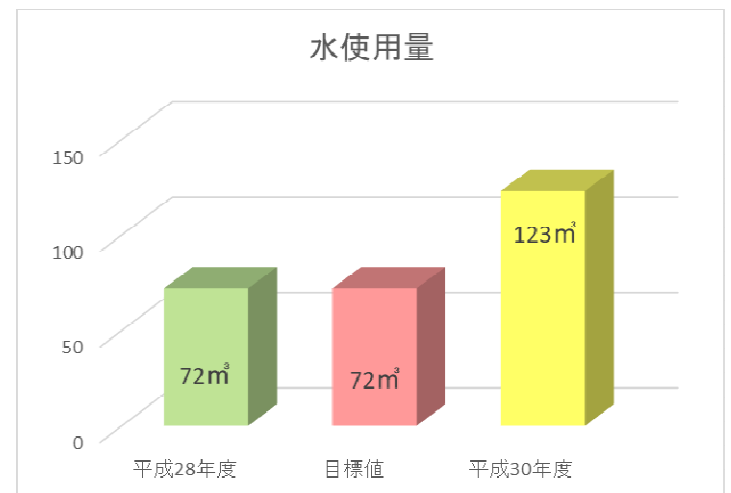
4) グリーン購入の推進

・平成30年度事務用品購入品目は、30品目で内20品目がグリーン商品でグリーン商品購入割合は67%と目標(平成28年度実績値、66%以上)を達成できました。



5) 総排水量

・平成30年度の水使用量は、123 m³と目標(平成28年度実績値、72 m³以下)を達成できませんでした。原因は、漏水によるもので9月末に漏水箇所を修繕し、以降は、使用量は減少しています。



6) 会社内外の環境美化

・平成30年度は、会社周辺のゴミ拾いを6回行い、目標(年6回)を達成できました。

● 環境活動計画と取組み結果の評価

環境目標	具体的方策	管理部門	実行責任者	実施状況※	
産業廃棄物リサイクル率100%維持 (中間処理うち再資源化量/産業廃棄物中間処理量)	・可能な限りの手解体	業務部	澤田淳	2	
	・分別の徹底			2	
	・リサイクルルートの更なる活用			2	
二酸化炭素排出量削減(使用量2%削減) 【平成28年度比】	【電気使用量削減】	・休憩時間の消灯	総務部	古川純子	2
		・廊下やトイレの不必要な電灯の消灯			2
		・設備電源の空転時停止	業務部	澤田淳	2
	【化石燃料使用量削減】	・各車両の燃費把握	業務部	澤田淳	1
		・アイドリングストップ(重機械・車両)			1
		・急発進、急加速、急停止の禁止			2
		・運行経路の確認			2
・各車両、重機の定期点検	2				
事務用紙使用量の2%削減 【平成28年度比】	・パソコン、電子メール、電子媒体の活用	総務部	古川純子	2	
	・両面印刷、両面コピーの励行			2	
	・社内文書の電子化			2	
グリーン商品購入割合66%以上 (グリーン商品品目数/事務用品購入品目数) 【平成28年度比】	・不必要な物品購入を行わない	総務部	古川純子	2	
	・エコ・グリーンマーク製品購入の推進			2	
総排水量の削減 【平成28年度比】	・手洗用水の節約	全部門	古川純子	2	
	・洗濯用水の節約			2	
化学物質使用量削減	取扱無し	-	-	-	
会社内外の環境美化	会社周辺のゴミ拾い	全部門	古川純子	2	
	地域の環境保全活動への積極的参加			1	
環境関連法規の遵守	各講習会への積極的参加	全部門	古川純子	2	
	環境関連法規の変更を専門のHPで確認し、チェック			2	
環境に配慮した製品及びサービスの販売・提供	積荷の飛散・落下防止対策	業務部	澤田淳	2	
	適切な収集・運搬計画の立案			2	
合計A	※取組んでいる「2」、さらに取組が必要「1」、取組んでいない「0」とした合計			45	
満点B	B=取組項目数()×2=			48	
得点A/B(%)	満点Bに対する合計点Aの割合			94	
環境管理責任者の確認評価 (注1)	1年間を通してよく取り組んでいた。				

※取組んでいる「2」、さらに取組が必要「1」、取組んでいない「0」

一年間を通してよく取り組んでいましたが、もう少し取り組みの必要な項目がみられるので、指導し次年度の課題とします。

● 今後の環境目標

次年度以降の短期目標並びに長期目標を下表のように設定します。

項目		基準値	目標値		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
取り扱い廃棄物のリサイクル率向上	産業廃棄物リサイクル率 (中間処理うち再資源化量 / 産業廃棄物受入量)	100% (370.6t/370.6t)	100%維持	100%維持	100%維持
二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素排出量	76,827kg-CO2	76,058kg-CO2 【基準年比1%減】	75,290kg-CO2 【基準年比2%減】	74,522kg-CO2 【基準年比3%減】
事務用紙廃棄量削減	事務用紙使用量(A4換算)	7037枚	6,967枚以下 【基準年比1%減】	6,896枚以下 【基準年比2%減】	6,826枚以下 【基準年比3%減】
グリーン調達推進	グリーン商品購入割合 (グリーン商品購入品目数/事務用品購入品目数)	66% (22品目/44品目)	66%以上 【現状維持】	66%以上 【現状維持】	66%以上 【現状維持】
水使用量削減	総排水量	72m ³	72m ³ 以下 【現状維持】	72m ³ 以下 【現状維持】	72m ³ 以下 【現状維持】
化学物質使用量削減	化学物質使用量	取扱無し	-	-	-
会社内外の環境美化	会社周辺のゴミ拾い	-	6回以上	6回以上	6回以上

● 次年度の環境活動計画

次年度の環境活動計画を下表のように設定します。

項目	具体的活動計画	管理部門	実行責任者	
取り扱い廃棄物のリサイクル率向上	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限りの手解体 分別の徹底 リサイクルルートの更なる活用 	業務部	澤田 淳	
二酸化炭素排出量削減	【電気】	<ul style="list-style-type: none"> 休憩時間の消灯 廊下やトイレの不必要な電灯の消灯 設備電源の空転時停止 	総務部	古川純子
	【化石燃料】	<ul style="list-style-type: none"> 各車両の燃費把握 アイドリングストップ(重機械・車両) 急発進、急加速、急停止の禁止 運行経路の確認 各車両、重機の定期点検 	業務部	澤田 淳
	事務用紙廃棄量削減	<ul style="list-style-type: none"> パソコン、電子メール、電子媒体の活用 両面印刷、両面コピーの励行 社内文書の電子化 	総務部	古川純子
	グリーン調達の推進	<ul style="list-style-type: none"> 不必要な物品購入を行わない エコマーク、グリーンマーク製品購入の推進 	総務部	古川純子
	水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> 手洗用水の節約 洗濯水の節約 	全部門	古川純子
化学物質使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> 取扱無し 	-	-	
会社内外の環境美化	<ul style="list-style-type: none"> 年6回の会社周辺のゴミ拾い 	全部門	古川純子	
環境関連法規の遵守	<ul style="list-style-type: none"> 各講習会への積極的参加 環境関連法規の変更を専門のホームページで確認し、チェックする 	全部門	古川純子	
環境に配慮した製品及びサービスの販売・提供	<ul style="list-style-type: none"> 積荷の飛散・落下防止対策 適切な収集・運搬計画の立案 	業務部	澤田 淳	

● 環境関連法規への違法、訴訟等の有無

(1) 違反・訴訟等

環境関連法規遵守チェック表で環境管理責任者がチェックした結果、廃棄物の処理及び清掃に関する法律等、環境関連法規への違反はありませんでした。また過去 3 年関係機関等からも特に指摘、苦情等は無く、訴訟等も 1 件もありませんでした。

● 代表者による全体評価と見直し

・環境方針

変更の必要なし。

・環境目標、

変更の必要なし。

・環境活動計画

変更の必要なし。

・環境経営システム

変更の必要なし。

・総括

目標を達成できない項目もあったが、全体的によく取組んでいる。令和 1 年度も引き続きこの体制を維持し、協力して活動する。

【環境活動の周知】

- ・切断圧縮破砕機の節電ポスター掲示



- ・破砕機への節電ポスター掲示



- ・手洗い場への節水シール貼付



- ・トイレへの節水ポスター貼付



- ・照明スイッチへの節電シール貼付



- ・環境管理重点テーマ及び安全方針カードの配布

